

# 2021年度 こまき市民「多文化共生」ワークショップ ～みんなで小牧の多文化共生を考えよう～ 実施報告

## 1. ワークショップの概要

### (1) 開催趣旨・目的

多文化共生推進プランを周知するとともに、「挑戦すること」の進捗状況の把握に努め、進捗状況調査を補完することを目的に開催した。ワークショップでは、小牧市の多文化共生推進について、日本人市民と外国人市民による多文化共生の課題についての意見交換を行った。

### (2) 実施概要

日時：2021年10月3日（日）13：30～16：00

場所：まなび創造館 4階 多目的室

対象：市内在住・在勤・在学の日本人市民および外国人市民。

日本語でのコミュニケーションをベースにして、外国人市民の母国語にも極力配慮しながら、意思の疎通ができる方を対象とした。

当日参加者数：19名（その内、外国人市民は13名）

### (3) スケジュール

項目	時間	内容
一般受付	13：00	
1. 挨拶	13：30	主催者（小牧市）の挨拶
2. 現状について	13：33	幼児教育・保育課の通訳（ロッカ・ファニーさん）による「誰もが暮らしやすいまちづくり」の観点から、現状や課題についての話。
3. 多文化共生の活動報告	13：43	多文化共生推進室より、小牧市における外国人住民を取り巻く状況の変化と、多文化共生推進プランについて説明。

4. プログラム 説明	13:48	ワークショップの進め方について説明
5. アイスブレイク 自己紹介 テーマ設定	14:00	グループごとに、それぞれ異なった色の色紙を配って、その色から連想することやものを書き出してもらおう。その後、メンバーの簡単な自己紹介、今日話したいことを話し合っ て決める。 グループ内で進行役と記録係を決め、今日話すことを決める。
6. 小牧市の 多文化共生 の課題 について	14:20	決められたテーマに沿って、小牧市での課題や解決策（日本人市民と外国人市民が共に暮らしていく中で、困っていることや、こうしたほうがよいと思うこと）を参加者各自が考え、ふせんに書き出す。
7. 意見の発表	14:50	グループ内で意見を発表
8. 意見 のまとめ	15:05	出された意見をグループ内で整理する（課題の解決方法の視点からまとめを行う）。
9. グループ 発表	15:15	まとめた意見をグループごとに発表
10. ワークシ ョップ のまとめ	15:45	主催者（小牧市）のまとめ（参加者へのお礼と意見の庁内共有について）・アンケート記入のお願い
11. 終了の 挨拶	15:50	主催者の終了挨拶
12. アンケー ト記入・ 解散	15:55	アンケートの記入が終わり次第、解散。

※日本語レベルが初級以下の参加者は、日本語でコミュニケーションがとれ、かつ母語が同じ参加者のグループに配置するといった配慮を行った。

#### (4) 配布資料

- ・ワークショッププログラム
- ・資源・ごみの分け方と出し方（概要版）（ごみ政策課）

- ・自治会じちかいに参加さんかしてみよう！（自治会じちかい支援室しえんしつ）
- ・小牧市こまき防災ぼうさいガイドブックがいどぶっく（防災危機管理課ぼうさいききかんりか）（持もっていない家庭用かていよう）
- ・多文化共生推進たぶんかきょうせいすいしんぶらんプラン
- ・アンケートあんけーと

## (5) 告知こくち

ワークショップわーくしょっぷの告知こくちにあたっては、募集チラシぼしゅうちらしを作成さくせい・配布はいふし、広報こうほうこまき・外国語版生活情報誌がいこくごばんせいかつじょうほうし・小牧市ホームページこまきしほーむぺーじで開催かいさいの告知こくちを行った。加えて、日頃ひごろから協力関係きょうりょくかんけいにある組織そしきに、直接ちよくせつまたはメール等めーるとうにより情報発信じょうほうはっしんをお願いした。（小牧商工会議所こまきしょうこうかいぎしょ・K I A・大学だいがく・市内企業等しないきぎょうとう）

## 2. ワークショップわーくしょっぷの結果けっかまとめ

### (1) 当日発表とうじつはっぴよう

ワークショップわーくしょっぷでは、「日本人市民にほんじんしみんと外国人市民がいこくじんしみんが共に暮らしていく中で、困こまっていることや、こうしたほうがよいと思うこと」を各グループごとに話し合ってもらい、出てきた意見いけんについて発表はっぴようしてもらった。主に、市や学校などからの多言語情報たげんごじょうほうの充実じゅうじつや、外国人市民の親子間でのコミュニケーションがいこくじんしみん おやかかん こみゅにけーしょんなどの課題かだいが挙げた。各グループからの意見いけん（一部抜粋いちぶぼつすい）は以下のとおり。

#### ① グループ（ポルトガル語チーム）

- ・児童クラブなどの指導員しどういんや先生たちは、多文化共生の意味たぶんかきょうせい いみを分かっているか。子どもたちが母国語で会話していると、日本だから日本語でしゃべるように、指導員から言われてしまう。母国語でもいいのではないか。
- ・児童クラブは今年度から、19時まで子どもを預かってくれるようになった。おやつもなく、親との時間も減っている。市が親の育児放棄し おや いくじほうきを支援しているのではないか。
- ・母国語も日本語も中途半端で、学校の勉強がっこう べんきょうについていけない。同じ学年のレベルになるよう学習保障がくしゅうほしょうするべき。
- ・初期日本語指導教室では、場所によりサービスが違う。統一してほしい。
- ・学校区を変えたくてもできない。

- 外国人の子は、早い段階からタブレット端末などを使っている。使い方を理解し、親と直接、母国語でコミュニケーションを取る時間が大切。

## ② グループ（ポルトガル語チーム）

- コロナでイベント開催が少なくなり、日本人と外国人が触れ合う機会が減った。
- 平日仕事をしていると、日曜日は家族で過ごしたい。大人と子どもと一緒に参加できるイベントがあると参加しやすい。
- 災害時の日本語が特殊で分かりづらい。
- 自宅に母語（母国語）の情報を配ってくれるとありがたい。
- 学校からのメールの日本語が分からない。仕事の中で見ることもできず、子どもの迎えが最後になったことがある。
- ワクチンについて正しい情報が分からない。
- 翻訳アプリなど、便利なものはあるが、使いこなせない。
- 駅など、公共性が高いところにもっと生活情報誌や、多言語情報を置くといい。

## ③ グループ（日本語＋英語、混合チーム）

- 母国語を忘れないように、家庭では母国語で子どもとコミュニケーションをとるといいのではないかな。
- 宿題をどうやって教えていいのか分からない。
- 親が日本のマナーを学び、子はそれを学ぶのがいいと思う。
- プレスクールは有効。
- 初めての子育てでただでさえ不安。ましてや、外国で子育ては、さらに不安。

## (2) アンケート

アンケートでは、多文化共生推進プランの進捗状況のほか、ワークショップで参考になった意見や、自身で改善していけることなどについて質問した。日本語や母国語の重要性や、コミュニケーションの大切さ、イベントの開催や日本語教室等のPRについての回答があった。アンケート項目や集計結果については、別紙を参照。

### ワークショップの様子(当日写真)

げんじょう  
・ 現状について



たぶん かきょうせい かつどうほうこく  
・ 多文化共生の活動報告



ぐるーぷとうぎ  
・ グループ討議



はっぴょう  
・ 発表

